

## たけびし (コード 7510・大証 2部)

業績推移(連結) (予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
09.3	61,114	-12.9	1,607	-22.9	51.9	16.0	30.8	2.6
10.3	48,564	-20.5	1,056	-34.2	40.8	10.0	24.5	2.2
11.3(予)	57,000	+17.4	1,250	+18.3	47.6	10.0	21.0	2.2

## 幅広い産業分野と大手優良企業中心のユーザー構成が強み

特色... 京都・滋賀を主力地盤(10年3月期の同地区の売上構成比率45.6%)に、産業用電機・電子機器などを幅広く取り扱う、三菱電機の総合代理店を主とした“技術商社”。単に製品を提供するだけでなく、技術ノウハウ、システムデザイン、ソフト開発を手がける“技術商社”を志向。電気機器をはじめ、精密、機械、輸送、建設、電力、公共、商社など、幅広い産業分野にわたる展開力と、特色ある大手優良企業を中心とするユーザー構成は同社の強み。

## 10年3月期は2ケタ減収減益に

上半期の落ち込みが厳しく..10年3月期は、09年10月以降、同社主力のFA・デバイス事業の半導体・液晶製造装置および電子機器製造装置関連向け需要に回復傾向が見られたものの、上半期(09年4~9月)において企業の設備投資低迷を背景に極めて厳しい状況で推移。売上高は09年3月期比20.5%減、経常利益が同34.2%減と、前年に続いて2ケタの減収減益になった。事業別売上は、FA・デバイス事業:304億5,300万円(09年3月期比27.5%減)、社会・情報通信事業:181億1,100万円(同5.3%減)。FA・デバイス事業では、産業機器システム部門が193億3,500万円(同24.2%減)に、半導体・デバイス部門も111億1,700万円(同32.6%減)に落ち込んだ。また、社会・情報通信事業では、社会インフラ部門が103億7,000万円(同6.4%減)、情報通信部門も77億4,100万円(同3.9%減)となった。

## 11年3月期は一転して業績回復へ

売上高、経常利益とも一転増加へ...11年3月期の連結業績は、売上高が10年3月期比17.4%増、経常利益は同18.3%増と、3期ぶりに増収増益へ転じる見通し。事業別の売上予想は、FA・デバイス事業:387億9,000万円(10年3月期比27.4%増)、社会・情報通信事業:182億1,000万円(同0.5%増)。FA・デバイス事業のうち、産業機器システム部門が240億7,000万円(同24.5%増)、半導体・デバイス部門は147億2,000万円(同32.4%増)の見込み。社会・情報通信事業では、社会インフラ部門が109億6,000万円(同5.7%増)、情報通信部門は72億5,000万円(同6.3%減)へ。FA・デバイス事業において、産業機器システムについては前年下期から需要回復した半導体・液晶関連設備、装置向け需要が増加。半導体・デバイスについては産業向け(車載、制御用ほか)に半導体が緩やかに需要回復へ。また、社会・情報通信事業において、社会インフラ事業では冷住、重電などの需要伸長が見込まれる一方、情報通信事業では携帯電話が市場飽和によって次世代型端末でも補えず販売台数減へ。年間配当は現時点で10円を予定している。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。